

1 調査の目的

本調査は、区政に対する区民の意識や意向、評価などを把握し、今後の行政施策の検討・立案の際の基礎的参考資料として活用することを目的として実施した。

2 調査の内容

- 1 定住性について
- 2 生活環境について
- 3 重点施策について
- 4 区議会について
- 5 公共施設について
- 6 地域活動への参加について
- 7 環境について
- 8 ごみの各戸収集とリサイクルについて
- 9 防災について
- 10 オリンピック・パラリンピックについて
- 11 地域スポーツの推進について
- 12 健康について
- 13 認知症について
- 14 シティプロモーションについて
- 15 広報と情報化について

3 調査設計

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査地域 | 品川区全域 |
| (2) 調査対象 | 品川区在住の満20歳以上の男女個人（平成28年6月1日現在） |
| (3) 標本数 | 1,500標本 |
| (4) 母集団 | 品川区住民基本台帳の満20歳以上の男女個人 |
| (5) 抽出方法 | 層化2段無作為抽出法 |
| ①層化 | 品川、大崎、大井、荏原、八潮の5地域を基本に8地域に層化し、地域の人口比に応じて地点数を比例配分する。（合計150地点） |
| ②地点抽出 | 無作為に決めたスタート点から等間隔抽出法により、地域ごとに地点を抽出する。 |
| ③対象者抽出 | 各地点とも最初の対象者から10人目ごとに10人を抽出する。 |
| (6) 調査方法 | 調査員による個別面接聴取法 |
| (7) 調査期間 | 平成28年6月24日～7月10日 |
| (8) 調査機関 | 株式会社 エスピー研 |

地域区分図



調査地域内訳

地域名	左記地域に包括される町（丁）名
品川地域	東品川、北品川、南品川、西品川、広町
大崎地域	上大崎、東五反田、西五反田、大崎
大井東地域	東大井、南大井、勝島
八潮地域	八潮
大井西地域	大井、西大井
荏原東地域	戸越、豊町、二葉
荏原中地域	平塚、中延、西中延、東中延、旗の台（2～5丁目）
荏原西地域	小山台、小山、荏原、旗の台（1・6丁目）

※参考：各地域の高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合・平成28年6月1日現在）

各地域の高齢化率

	区全体	品川	大崎	大井東	八潮	大井西	荏原東	荏原中	荏原西
総人口（人）	381,508	68,359	64,306	50,598	12,342	45,671	42,675	47,007	50,550
65歳以上（人）	80,369	14,258	10,981	9,447	3,928	9,880	10,699	10,488	10,688
高齢化率（%）	21.1	20.9	17.1	18.7	31.8	21.6	25.1	22.3	21.1

4 回収結果

- (1) 標本数 1,500
(2) 有効回収数 1,070 (有効回収率 : 71.3%)
(3) 回収不能数 430

(4) 地域別回収結果

地域別回収結果

地 域	20歳以上人口 (人)	構 成 比 (%)	標 本 数 (人)	回 収 数 (人)	回 収 率 (%)
区 全 体	327,001	100.0	1,500	1,070	71.3
品 川 地 域	57,870	17.7	265	190	71.7
大 崎 地 域	55,192	16.9	255	155	60.8
大 井 東 地 域	43,330	13.3	200	157	78.5
八 潮 地 域	10,647	3.3	45	30	66.7
大 井 西 地 域	38,540	11.8	175	129	73.7
荏 原 東 地 域	37,187	11.4	170	113	66.5
荏 原 中 地 域	40,786	12.5	190	154	81.1
荏 原 西 地 域	43,449	13.3	200	142	71.0

(5) 回収不能の内訳

回収不能の内訳

	全体	転居	不在	拒否	住所不明	その他
人 数 (人)	430	34	286	105	3	2
内 訳 (%)	100.0	7.9	66.5	24.4	0.7	0.5

5 集計にあたって

- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100%ちょうどにならず、1%の範囲で増減することがある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) n (Number of Casesの略) は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者数に相当するかを示す。
- (5) クロス結果のグラフや表について、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、表側のカテゴリーの件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (6) 集計は、①単純集計、②回答者の属性とのクロス集計、③設問間のクロス集計の3種類を行った。
- (7) 標本誤差 (b) は次式で得られ、①比率算出の基数(n)、②回答の比率(P)によって誤差幅が異なる。

$$b = 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

$$\left\{ \begin{array}{l} N = \text{母集団数} \\ n = \text{回答者数} \\ P = \text{回答の比率} \end{array} \right.$$

今回の調査結果の場合、誤差は下表のとおりであり、「ある設問の回答者数が1,070人で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は、最高でも±4.2%である」というようにみる。

標本誤差一覧表

回答の比率(P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,071	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.2%	±4.3%
1,000	±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
800	±3.0%	±4.0%	±4.6%	±4.9%	±5.0%
600	±3.5%	±4.6%	±5.3%	±5.7%	±5.8%
400	±4.2%	±5.7%	±6.5%	±6.9%	±7.1%
200	±6.0%	±8.0%	±9.2%	±9.8%	±10.0%

(注) $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ として計算した。

6 分析にあたって

(1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100% ちょうどにならず、1%の範囲で増減することがある。

(2) ライフステージの分類は以下のとおりである。

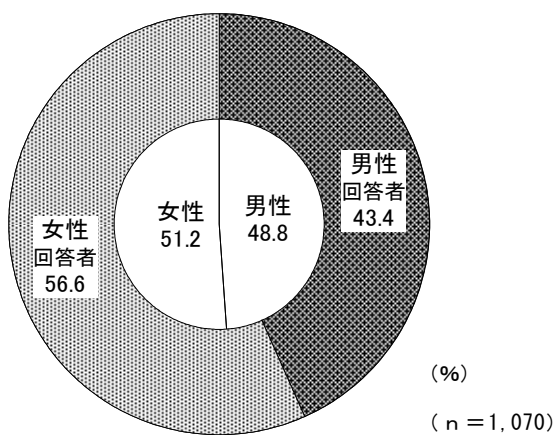
- A. 独身期 40歳未満の独身者
- B. 家族形成期 40歳未満の子供のいない夫婦または一番上の子供が小学校入学前の人
- C. 家族成長前期 一番上の子供が小・中学生の人
- D. 家族成長後期 一番上の子供が高校・大学生の人
- E. 家族成熟期 64歳以下で一番上の子供が学校を卒業している人
- F. 高齢期 65歳以上の人
- G. その他 40歳～64歳の独身者、40歳～64歳の子供がいない夫婦など

7 母集団との比較

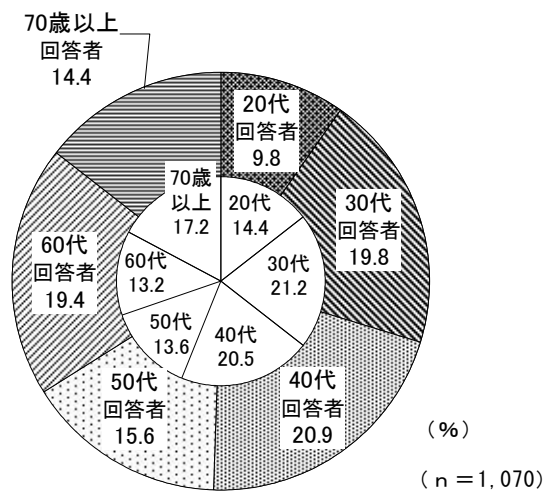
母集団（品川区住民基本台帳の20歳以上の男女個人）と比べると、調査回答者の性別では女性が5.4ポイント高くなっている。また、年齢では40代から60代の回答者がやや多く、20代、30代、70歳以上の回答者がやや少なくなっている。

(注) 母集団は、品川区の総人口：381,508人（男性187,175人、女性194,333人）から、0歳～19歳人口：54,507人（男性27,742人、女性26,765人）を除いた人数となる。

(1) 性別



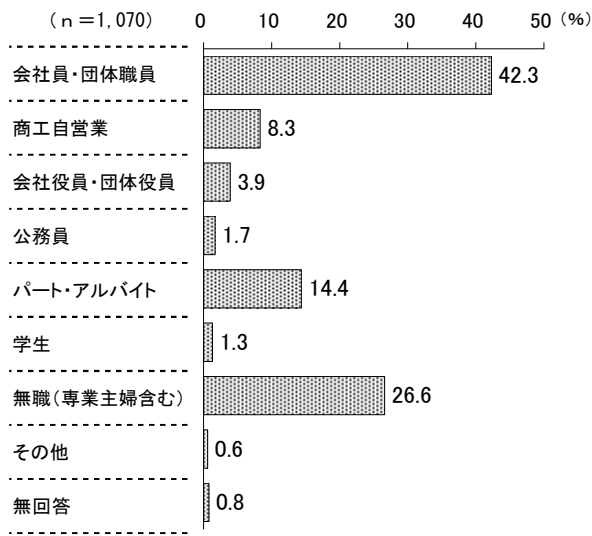
(2) 年齢



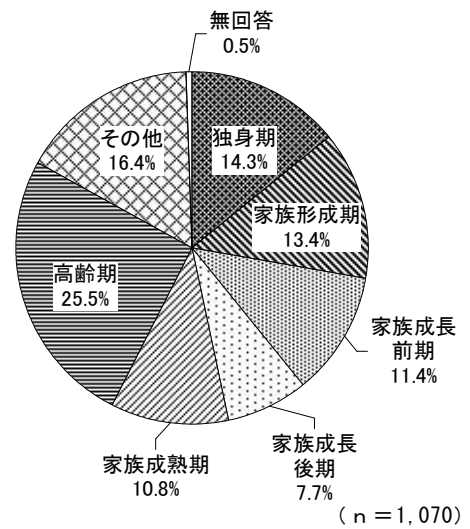
(注) 内円は母集団の、外円は調査回答者の構成比を表している。

8 調査回答者の属性

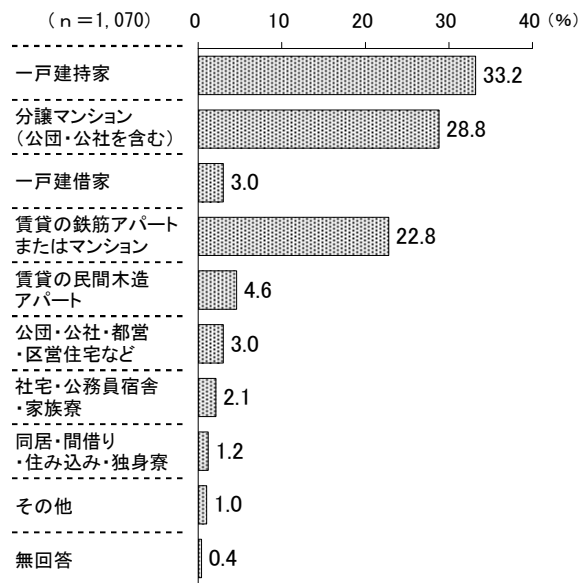
(1) 職業



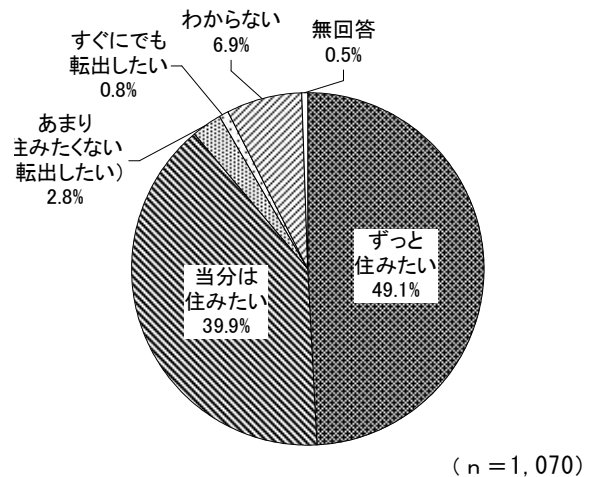
(2) ライフステージ



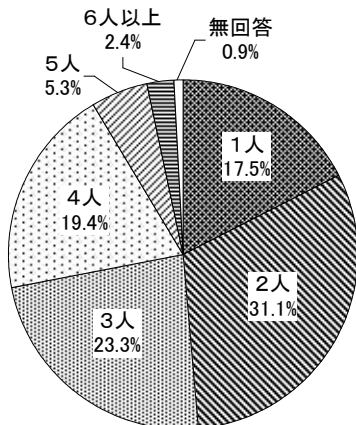
(3) 住居形態



(4) 定住意向



(5) 家族人数



(n=1,070)